

広島県レクリエーション協会

報告者

広島県レクリエーション協会
砂橋昌義

参加者

	50代以下	60代	70代以上	計
男性	0	11	5	16
女性	0	7	0	7

日程・会場

	内 容	日 時	会 場
第1回	オリエンテーション/アイスブレイキング	10月12日(金) 10:00~12:00	広島市中区 スポーツセンター
第2回	コミュニケーションワーク/ホスピタリティトレーニング	10月12日(金) 13:00~15:00	
第3回	レク式体力チェックと食生活チェックでカラダ・再発見	10月25日(木) 13:00~15:00	
第4回	スポーツ・レクリエーション潜在力の再発見	10月25日(木) 15:00~17:00	
第5回	もしも……、を起こさない安全管理と救急救命法	11月8日(木) 13:00~17:30	
第6回	スポーツ・インフラを把握しよう!	11月22日(木) 10:00~16:00	
第7回	地域スポーツ・レクリエーションイベント企画・実現術	12月14日(金) 13:00~15:00	
第8回	わがまちの運動・スポーツ施策を学ぼう	12月14日(金) 15:00~17:00	
第9回	スマートスポーツを楽しもう	12月21日(金) 10:00~16:00	
第10回	卒業制作 スポーツ支援事業の企画①	1月10日(木) 13:00~15:00	
第11回	卒業制作 スポーツ支援事業の企画②	1月10日(木) 15:00~17:00	
第12回	卒業制作 審査会	1月25日(金) 13:00~15:00	

参加者同士の絆を深めた コミュニケーションワーク

8区の行政区域で構成される政令指定都市・広島は、各区にスポーツセンターなどの関係施設が充実し、地域を巻き込む活動や事業が活発に展開されている。これをたばねる広島市スポーツ協会では、さまざまな活動の支援を目的とする「アクティブシニア」の育成などもすでに行われている。

講座の参加者数は思っていたほど伸びなかった。参

加者の多くはまったく関係性のない方々であり、さらに健康面で活動の困難さを感じられる方も含んでいたこともあって、いささかの不安を感じながらの事業スタートであった。

しかし、プログラムが進むにつれて、参加者はすぐに打ち解けた様子だった。回を重ね、グループワーク形式の研修も取り入れることによって活発な発言が増え、お互いの理解が深まるにつれ仲間づくりができたようだ。これは、コミュニケーションワークの賜物であり、受講者自身も実感したことだろう。



専門家の解説によりレクリエーション活動の教養を深める

レクリエーション活動で参加者が自然に笑顔に



回を重ねるごとに参加者の発言も積極的になった

安心感を持っていただく 雰囲気づくり

講師については、ひろしまレクリエーション協会のメンバーにその大半を担当していただいた。さらに、研修会場となった広島市中区スポーツセンターのコーディネーターから、スポーツセンターの施設利用などの説明を受けたり、センター近隣の付帯施設、スポーツ・文化に関する環境も学ぶことができた。また、スマートスポーツについては講義や実技指導ができる講師に、スポーツ施策については広島市職員に、それぞれ専門的な知見をもとにお話しいただいた。

運営を円滑に行うための基本として、会場を同センターの会議室に固定した。スマートスポーツは同じく中体育室を使用し、参加者に会場に対する安心感を持っていただけるよう手配した。長時間にわたる講座ではコーヒーなども準備し、休憩中の会話も自然にはずんでいた。配布した教材は、印刷してファイルにまとめ、单元ごとにわかりやすいように見出しと開催日時を記載した別色の間紙を入れた。講義ごとに配布した資料などもその場で穴をあけて綴じ込んでいただき、あとから見直すことができるように工夫した。

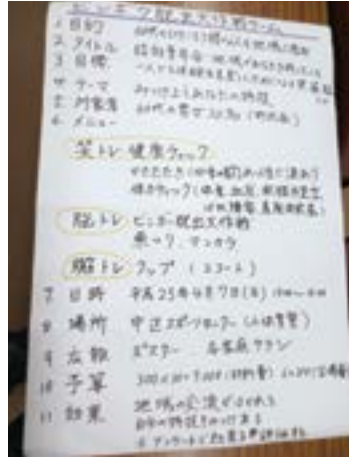
参加者にはあらゆることに興味を持ってのぞんでいただき、参加者同士の情報交換も徐々に盛んになった。

レクリエーション活動への 関心が高まった

簡単に取り組める「脳トレ」ゲームを会場に備えたところ、休憩時間に自由に使っていただくとともに、スポーツイベント企画でこのゲームの使用が検討されるなど、最大限に有効活用していただくことができた。



企画コンペに向けてグループワークにも熱が入る



チームの1つの
スポーツ支援事業企画案

最終回(審査会)のプレゼンテーションでは、グループごとにアイデアや工夫をみる事ができた。今後の活動にも自然と興味がわいたようで、スポーツのみならず、レクリエーション活動への関心も高まったようだ。閉講式後、参加者間で連絡をとれるようにしてほしいとの要望もあった。2月開催のレクリエーションイベント「レク祭り」にも参加していただけることになった。なお、参加者募集については、市内関係団体などにチラシを配布し、呼びかけや案内を実施したが、期間が短かったこともあり、実効あるPRができなかった点を反省している。

一番重要なのは「ホスピタリティ精神」

募集計画、講師や会場の手配など、さまざまな準備を丁寧に行うこと。これによって、開催してからの段取り不足によるあわただしさを防ぎ、円滑な運営ができると実感した。事前の段取り次第で、開催前の不安はとりのぞける。事業がスタートしたら、参加者とのコミュニケーションを大切にすることが、スムーズな運営に有効であると確信した。スタッフも参加者から学ぶことが多かった。そして何よりも、「ホスピタリティを大切に」運営することが、参加者に満足をお届けできる重要なポイントであり、私たちが日ごろから心がけているキーワードでもある。